

「網は破れなかった」 ～私に従ってきなさい～

ヨハネ 21:1 ~25

はじめに

私たちは色々な雑念が出てきます。なぜ私たちはこのような雑念が起こるのか!?なぜ私達はこのような問題に巻き込まれるのか!?被害者的な目線もあればそこにはそうではない色々な正しい声も聞こえてきます。私たちはこういう中に入って始めてそれが自分の中に聞こえる声の値打ちであることが良く分かります。その中であなたはどのような目線で持ってきたのか、もう一度思い巡らしてみよう。

私達の目線

ある一人のご婦人には娘と息子が一人ずついました。そして2人の子どもたちにそれぞれ家に招待されたので遊びに行きました。まず息子の家に遊びに行ってみると、お嫁さんは美味しい食事をふるまってくれた後、終わったのでソファーに座ってテレビを見ていました。そして食事の後片付けとして息子さんがお皿を洗い始めました。母親から見ればお嫁さんがソファーでテレビを見て息子はお皿を洗わされているという見方になってしまいます。そして家に帰ってみんなに言うて回りました。「嫁はソファーでテレビを見て、わが息子がお皿を洗わされている!」と、ところが次に娘の家に遊びに行った時、同じように夕食を食べ終えて娘は同じくソファーでテレビを見て義理の息子がお皿を洗い始めました。同じように家に帰って皆に言うのです。「義理の息子さんは素晴らしいのよ!疲れた私たちを気遣ってくれて私達をソファーでくつろがさせてくれて、自分は後片付けにお皿を洗ってくれるのよ」と皆に言うて回ります。光景は同じことですが、母親は息子と娘に対する見方が違っていました。片方は身内、片方は他人として見ていました。見方というのは私たちに大きな影響を与えます。そして問題なのは人はこうゆう時に自分の中で口を制することが出来ないという悲しさです。自分の中で納得して解決すれば良いのですが、我が家の恥を周りの人にまで吹聴してしまうという愚かさを持っています。そして私たちが覚えておかなければならないのは自らが計るばかりではかれるという事です。自分がどのような目線で物事を判断しているのかを考えてみましょう。

自分の素直な思い

イエス・キリストは取税人マタイを見つけました。人を騙している罪人です。しかしイエス様に飢え乾く目線でイエスの事をみていたことがわかります。ザカイは木の上に登ってイエス様を心待ちにしている姿があります。ペテロは差別された田舎の漁師で、間違った生き方をしてしまったわけですが、イエス様に声をかけられると真っすぐ素直でイエス様に向いていく目線を持って行く人でした。私たちが自らもう一度確認したいのが私達の心の中にある素直な思いに目を向けたという事です。私たちに色々な問題が起こると素直でない心がたくさん訪れてきて私達の心を支配しようとしています。追って来たら正しい良心は薄れて、そうではない雑念やそう思いたくない思いが私達の心を支配して憎しみに傾いたり、不安に傾いたり、恐れに傾いたりしますが是非そうならないように本当の自分のまことの自分の素直な気持ちは何かを考えていきましょう。

大きな問題の中にある時

私たちの人生を振り返って大きな問題が起こった時、その理由を決めることが出来る時や出来ない時があります。イエス・キリストに出会った瞬間一人のひとは神の前に悔い改めました。しかし一人の人はこういうものでないものであることを感謝すると言った時、神はどちらを喜んで天の御くにはだれのものであろうか!?一人の人は人生を間違えて生きていましたが、自分の誤りを見つけました。一人の人は間違えていることを分からずにそれを固辞して生きようとしています。そういう時にひとつの問題が起きます。そういうときに私たちにとって大事なことは何故これが起きたのか!?という事を考えるということです。まずはだれかのせいにして、自分の心配を取りのぞきたい為になにかを行いたい。しかし、私達は動じることはありません。幾度もペテロの生き様を通して学んできたからです。何度にもわたって信じる事と忍耐すること。私達は既に徳があるということ。だから誰かが何かをしても憎まない。誰かが敵対しても仕返しをしない。なぜならばローマから始まったこの学びは私たちが罪びとの頭であることを教えているからです。それがあから私達はどんな災いがあっても恐れな!もし災いが起きたとすればそれは成熟の為でしかない。という事を知っています。そこで私たちが気をつけなければいけない事は「見方」なのです。

網は破れなかった。私に従ってきなさい

大失敗したペテロは失望し、元の通り漁師に戻っていました。そんな中、復活のイエス様が現れて「反対側に網を下ろしなさい。」と命令します。ペテロ達かが網を下ろすとたくさんの魚が捕れたのです再び同じシーンでイエス様に出会い、呼び出され同じ言葉で彼は神様に従っていきました。失敗者たちが悔い改めた時、彼らは立派な網になったのです。神様は従う者に力を与えるお方です。(II歴代 16:9)【主】はその御目をもって、あまねく全地を渡渡し、その心ご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてください。

私たちは破れることはない ヨハネ 21:10 ~ 11

153匹の大きな魚でいっぱいであったが、網は破れませんでした。神様が用いられる人は破けさせられる事はありません。自分には能力が無いと思っている人は多いですが、これはウソです。もしあなたが信じるのであればあとは神の栄光を見ます。神様があなたの方をつくれたので私たちが破れることはありません。大事なことは信じるかどうかです。神様が願うのは、神と1対1の関係です。私達に問題がある時、一人で暗闇の中を通る時、自分を見直す必要な機会を与えられています。

神様に従う ヨハネ 21:22

あなたは私に従うのかを神様は聞いています。「従うということ」「自分では何も出来ないという事」。聖書は「従え」という事を教えています。人ではなく、神様に向き合う時間を持つときです。誰でも与えられた領域を超えた行動をしてはなりません。あなたが聞かされている事、あなたの所に届いている事、知っている事...それがあなたに任されたことです。

まだ書き続けられている ヨハネ 21:25

ヨハネの手紙はあなたを通してまだ続けられています。あなたがこの先を書いている。という事をあなたは知っているでしょうか!?もしあなたが人生を終えた時にヨハネの手紙のストーリーにあなたが登場するとしたら...あなたの歴史はまだ書き続けられているのです。このコロナ禍において、教会も次のステップに移ろうとしています。一人ひとりがいよいよ教会となっていく時代です。神様自身が一人ひとりを守って導いておられます。あなたのなすべきことは既にたくさん用意されています。だからこそ、どんな目線をあなたが持つかです。被害者目線を捨て、強い信仰を持って生き抜いて行きましょう!あなたが置かれた場所においてイエス様の愛を伝える人として出会った一人一人にしてあげられる事、伝えるべき神様の恵み...今あなたができることはたくさんあります。

最後に...

あなたは、私達一人一人を選んでくださいました。どうか、一人一人が自分の目線を捨て、あなたに近づかせてください。

私達がどのような状況にある時にも、しっかりとあなたを見る事ができますように。そしてあなたを信じ、あなたに従うものとさせていただきます。

私達が問題を通る時、自分が直すべきことはないでしょうか?

「このことだけはしてはならない。」と言われていることはないでしょうか?

それを受け取り、素直に悔い改める時、あなたが通ったその痛みは素晴らしい実を結びます。素直に神様の前に出て行きましょう。

(ヨハ 21:25) イエスが行われたことは、ほかにたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入

(要約者:西崎孝之)

(2021年8月29日)